# 日本学術会議　経営学委員会経営大学院における認証評価の国際通用性に関する分科会（第 24 期･第 1 回）議事録

記録：分科会幹事：林裕子

【第１回】

出席：徳賀　芳弘、西尾　チヅル、鈴木　久敏、仙石　正和、戸谷　圭子
　　林　裕子、藤田　誠、馬越　恵美子、森田　雅也、山本　昭二、吉田　文
　　高橋　宏幸（説明人）、前田　早苗（説明人）

欠席：武市　正人

1．日時：12 月 15 日（金）（10 時 00 分～12 時 00 分）

2．会場：日本学術会議６－A（２）会議室

3．議題と議事録（敬称略）

(1) 分科会設置の趣旨（世話人）

大学院教養の質を保証し、社会が求める人材を輩出するため、関係業界等との連携による人材養成機能の強化と育成人材の国際通用性の確保が必要である。産業界からは経営系専門職大学院の教育に対して国際的な同等性、通用性について疑問を出され、海外の認証評価機関の認証を受けるべきとの議論がある。本分科会では中央教育審議会専門職大学院 WG の報告（2106 年８月）や学術会議の報告（2017 年５月）を踏まえ国内外の経営系大学院教育および認証評価制度に詳しい会員、連携会員を中心に、わが国の認証評価制度と国際認証評価制度との整合を図りつつ、我が国の認証評価制度の国際通用性を確保する方策について、提言をまとめる。

(2)24 期分科会委員の追加について(世話人）

参加希望連連携会員からの追加候補者の推薦承認（確認）

特任連携委員の確認（確認）

(3)自己紹介　各会員、連携会員、説明人

(4)委員長等選出　委員長　鈴木久敏、副委員長　山本昭二、幹事　林裕子に決定

(5)報告 「アメリカ、イギリス、日本の質保証制度について」

報告者　千葉大学国際教養学部　前田早苗　教授

専門職大学院の認証評価制度の改革の方向性としては、１．現行の認証評価制度の充実、２．機関別認証評価への組み込み（プラス、国際性のある新たな評価制度の構築）、３．海外の専門分野別アクレディテ―ションの受審、が考えられる。これを踏まえ、アメリカ、イギリスの制度、日本の現状について報告された。

● アメリカの質保証システムについて

・アクレディテ―ションシステムの概要

・アクレディテ―ション機関の種類

・近年の傾向

- イギリスの質保証システムについて
- 日本の認証評価制度について
- 認証評価制度の特徴と課題

(6)報告　ドイツにおける「国際認証」の現状と問題点

報告者　中央大学経済学部　髙橋宏幸　教授

- ドイツでの「国際認証」の導入状況は低い
- ドイツのビジネススクールの圧倒的部分が州立であり、私学は例外にとどまってきた。
- ドイツの大学は 16 州がそれぞれ高等教育の責任を負い、連邦政府も高等教育の責任を負う複雑な構造。この中に、ドイツ固有の認証システムがあり、その上国際認証を受ける費用負担は、州政府の大学予算では困難。このことがドイツ全体として国際認証の導入が遅れた要因。

●近年トップ 5 の経営学系大学院には、州予算やシステムに拘束されない私学や非営利法人有限会社形態による設置が大きなウェイトを占める。

●ヨーロッパにおける高等教育のグローバル化と制度の共有化に向けた改革は、アメリカ化に向かっていることを意味する。

(7)質疑及びフリーディスカッション

・日本には ABEST21 等の認証評価機関があるが、少人数で運営されている

・何を持って国際基準とするか明確でない

・AACSB 等のコストを国立大学が負担するのは難しい

・法科大学院の就職状況などにもみられるように、出口対策はできているか？⇒専門職大学院の社会人の学びなおし等の出口はあるのか？例えば MBA を取ったことで、経済効果があるか？生涯賃金は上昇するか？

・日本は終身雇用が中心で雇用流動性が低いため、日本の状況に応じた制度が必要ではないか？

・日本の国際認証、アジアに向けての国際認証も視野に入れるが、最後は一つを目指すのがいいのでないか？

(8)次回の予定

年三回程度の開催を予定

以上